

Yes, we can.

ある学生から、米国の第44代大統領にオバマ氏が選ばれたことで、学生なりに知り得た情報から、「黒人のオバマ氏も暗殺される危惧はないのだろうか」とコメントを求められた。

確かに、「人民の人民による人民のための政治」の言葉が有名であり、また、奴隷解放の父と云われる第16代大統領のリンカーンは暗殺された。

「私には夢がある。いつの日か、かつての奴隷の子たちと、かつての奴隷の所有者たちの子たちが、兄弟愛というテーブルで席を共にできることを」の言葉が有名であり、アフリカ系アメリカ人公民権運動の非暴力で指導者的役割を果たしたキング牧師も暗殺された。

「祖国があなたに何をしてくれるかを尋ねてはなりません、あなたが祖国のために何をできるか考えて欲しい」と演説し、さらに、人類の共通の敵である暴政・貧困・疾病および戦争と戦うためにともに参加してくれるように世界の国家に呼びかけたことでも有名であり、キング牧師の運動の成果としての公民権法にサインした第36代大統領のケネディも、動機は今も種々検証されているが暗殺された。

オバマ氏は、大統領選の勝利宣言演説でキング牧師の言葉を引用しているし、改革を呼びかけて「私たちはできる (Yes, we can.)」の言葉を演説で頻回に使っている。

報道によれば「人種差別の過激派が暗殺を企てるのではないかと」 심각한警護がなされ、当選勝利宣言の壇上にも防弾ガラスが用意されていたのは、ご存じの通りである。

学生には、次のようにコメントを伝えた。

「まず、母親は白人、父親が黒人であるハーフのオバマ氏が、なぜ『黒人初の大統領』と敢えて呼称されるのか、よく解りません（だって、ハーフだから『黒人の大統領』との呼称が可能なら、『白人の大統領』との呼称も可能なはずですよ）。

それはさておき、まだ人種差別が根深いと云われる米国であっても、『黒人初の大統領』を選ぶ理性ある国民の多い懐の深い米国。

案ずることより、国家の理想、いや、人種如何を問わず、人類の理想を高らかに掲げる人を大統領に選ぶ国民の理性を大いに学びましょう。

また、常に自らに改革を求め続ける姿勢も学びましょう。

オバマ氏が来年1月の大統領就任演説で、これからの人類の未来について全世界にどういったメッセージを発信するか、注目しましょう！」